研究論文：論文

景観に対する感性の研究

— 長野、奈良、東京の想起値比較 —

横井紘一, 清水義雄

信州大学繊維学部

KANSEI STUDY FOR LANDSCAPE

-Comparison of a remembrance value among the places Nagano, Nara, and Tokyo-

Koichi YOKOI, Yoshio SHIMIZU

Faculty of Textile and Technology Shinshu University, 3-15-1 Tokida, Ueda-shi, Nagano-ken, 386-8567, Japan

Abstract: We conducted a survey on how does human feel about a historical landscape and a natural landscape such as beautiful mountains and rivers. The investigation region was limited to three areas of Ueda City in Nagano, the eastern part of Nara City, and the downtown area in Tokyo. There were a lot of people who felt the solemnity, relief, and the tradition for a natural landscape and a historical landscape. And, there were a lot of people who felt vigorous spirit in the cityscape. If the landscape, which makes people's mind rich, was lost, it investigated by the remembrance method how much the counter value would become. According to results, the remembrance value about the eastern part of Nara City with Nara Park was high. And the remembrance value about Ueda City in Nagano was low. It suggests that a regional difference about economy value of a landscape to do a heart wealthily was confirmed.

Keywords: Landscape, Remembrance value, Economy value of a landscape

1. はじめに

割れ窓理論 (Broken Windows Theory) と呼ばれるものがある。これは、ガラスの割れた建物を放置しておく、さらにガラスが割られ、その地域が荒廃していくというアメリカのケリング博士の犯罪学理論である。実際に NY で割れた窓の一掃作戦を図ったところ、警備強化も相まって犯罪件数が減少したという。日本ではどうだろうか。国道などのけばけばしいロードサイド景観や農業景観の喪失が日本人の感性に悪影響を与えているのではないか。美しい景観を維持再生することは人間のこころを豊かにさせ、癒しの源になるにたいていまいか。美しい景観が人間のこころを豊かにさせるならば、景観は経済的な価値をもつと考えられる。その癒し効果は金額に置き換えたらどのぐらいの値になるか。もし美しい山々や川が喪失すると仮定したら、その心の痛みの想起値はいくらか。景観に対するこころの対価を確定することによって、景観の貴重性を再認識し、悪化する景観の防止と美しい景観の維持を図ることが本稿の目的とするところである。

2. 本稿が対象とする景観と感性

景観とは、山や川やたたずまいなど人間が眺める「対象」を表す「景」と、それらを眺める人間の感覚を表す「観」とを組み合わせた言葉である。さらに、本稿が対象とする景観は美的な景観である。より正確に言えば、感受した対象景観を美しいと判断したものである。景観における感性とは人工物や自然景観から感じられる受発信能力である。すなわち単に視覚だけで

はなく、味覚を除く、嗅覚・聴覚・触覚の複合的な感覚と歴史性や風土性を含んだ経験に基づく感受能力と、景観から得た情報による発信能力である。

3. 調査対象地域

景観調査の対象は山や川、池、田園、公園、道などの自然景観、寺院、町並みなどの歴史的施設景観、高層ビル、橋、大型商業施設などの都市景観である。今回の調査対象地域は自然景観を中心とした長野県上田市周辺、歴史的景観を中心とした奈良県奈良市東部、都市景観を中心とした東京都都心部の3箇所とした。上田市周辺は太郎山、烏帽子岳、菅平の山々と千曲川などの自然景観と上田城址、北国街道などの歴史的景観で構成されている。ただし、アルプスのような著名な山並みはない。奈良市東部は、世界歴史遺産に選ばれた東大寺、興福寺、春日大社、元興寺、奈良町などの歴史的景観と奈良公園、若草山などの自然景観で構成されている。東京都都心部は六本木ヒルズ、新宿副都心、お台場、東京タワーなど、新しい開発地を含む都市景観で構成されている。(図 1,2,3 参照)

4. 景観に対する感性調査方法

長野県上田市周辺、奈良県奈良市東部周辺、東京都都心部のそれぞれ代表的な景観写真 25 点を被験者に見せ、アンケート調査を行った。質問項目は以下の 4 点である。

1. こころ豊かに感じる景観を 3 点選ぶ

2. 選んだ景観から感じられる印象評価の言葉をそれぞれ自由記述方式によって回答する
3. 選んだ景観が仮に無くなった場合を想定し、そのこころの損失の対価を想起値で回答する
4. 選んだ景観を保全するための月額支払可能額を回答する

調査時期＝2004年3月から4月

調査人数＝3地点いずれも30名合計90名

調査年齢

長野県上田市周辺は10代から60代 男女比50:50

平均年齢40歳（男46歳、女33歳）

奈良県奈良市東部は20代から60代 男女比53:47

平均年齢43歳（男46歳、女39歳）

東京都都市部23区は20代から60代男女比60:40

平均年齢36歳（男37歳、女35歳）

図1：調査対象地 上田市地図

図2：調査対象地 奈良市東部地図

図3：調査対象地 東京都心部地図

5.1 長野県上田市景観

5.1.1 ころ豊かな景観

質問項目1の結果、30名で合計90票、23箇所が選ばれた。中間順位以上では自然系が鳥帽子岳、太郎山、千曲川、りんご園の山や川などの自然景観、人工物系が上田城址、信濃国分寺、上田高校前の通り、北国街道の歴史的景観であった。

5.1.2 景観印象評価

質問項目2の結果、30名で28点の感性語が回答された。鳥帽子岳や千曲川などの自然系景観から感じる言葉は荘厳、安心、癒し、雄大、元気、静寂、伝統などで、北国街道などの歴史的景観から感じる言葉は伝統、荘厳、安心、静寂、癒し等であった。

5.1.3 景観想起値

質問項目3の結果、表1のような回答が得られた。

表1. 上田市景観想起値（中間順位以上、平均値）

1位	太郎山を望む	251億7,500万円
2位	信濃国分寺	163億9,787万円
3位	鳥帽子岳を望む	84億5,533万円
4位	上田駅前	34億6,666万円
5位	上田城址	21億4,200万円
6位	千曲川	20億9,428万円
7位	北国街道	20億7,120万円
8位	千曲川にかかる鉄橋	3億9,250万円
9位	独鈷山を望む	2億8,666万円
10位	りんご園	2億7,500万円
11位	矢出沢川と高橋	2億1,666万円
12位	上田高校前通り	1億3,866万円
13位	柳町	1億1,000万円
14位	野倉集落	3,000万円
15位	一本道	405万円

上田市景観想起値は22箇所平均値28億3,150万円であった。

図4：上田市景観想起値調査1位 太郎山

図5：上田市景観想起値調査2位 信濃国分寺

図6：上田市景観想起値調査3位 烏帽子岳

5.1.4 景観保全支払可能額

質問項目4の結果、表2のような回答が得られた。

表2. 上田市景観保全支払順位(中間順位以上、月額、平均値)

1位	一本道	2,466円
2位	野倉集落	1,600円
3位	独鈷山を望む	1,500円
4位	信濃国分寺	1,413円
4位	千曲川	1,317円
6位	柳町	775円
7位	りんご園	720円
7位	烏帽子岳を望む	720円
9位	太郎山を望む	717円
10位	矢出沢川と高橋	716円
11位	北国街道	580円
12位	上田駅前	533円
13位	上田城址	506円
14位	上田高校前	433円
14位	千曲川にかかる鉄橋	433円

上田市景観保全支払額は20箇所平均861円で、平均値以上は信濃国分寺、独鈷山を望む、千曲川であった。

5.1.5 上田市景観調査まとめ

上田市民が豊かな景観と感じるのは主に自然景観である。想起値1位の太郎山(251億7,500万円)は、市内各所から見え、上田のシンボルとして親しまれている。無くなって欲しくないという住民の意思が感じられる。景観保全のための月額支払可能額3位独鈷山(1,500円)、烏帽子岳も想起値が上位を占めていることから、山に対し安心感や荘厳感など心の価値を感じていると推測される。

また、歴史的景観では信濃国分寺が貴重な存在として市民の支持を得ている。最近開発された上田駅前の近代的人工物は上田の景観としては認められていない。上田市生産人口約8万人(平成16年度)が景観保全に支払うことができると考えている年間額は、太郎山で6億8,832万円、信濃国分寺の場合は13億5,648万円である。これは上田市年間決算額415億(平成16年度)のそれぞれ約1.6%と約2.9%にあたる。

5.2 奈良市東部景観

5.2.1 こころ豊かな景観

質問項目1の結果、30名で合計90票、23箇所が選ばれた。1位飛火野の他、大仏殿、奈良公園、春日原始林、ささやきの小道、高畑歴史的景観地区、二月堂裏参道、春日大社鐘楼、奈良町界隈、若草山、平城旧跡、唐招

提寺、二月堂夕焼け、猿沢池、春日山の自然景観と歴史的景観15箇所が中間順位以上であった。15箇所のうち、自然景観が8箇所、歴史的景観は7箇所であるが、奈良公園、平城旧跡、飛火野、ささやきの小道、猿沢池の6箇所は人工的に整備されたものであるため、厳密には自然景観とは言いがたい。

5.2.2 景観印象評価

質問項目2の結果、30名で57点の印象評価の言葉が回答された。安心感(29票)、荘厳(19票)、伝統(19票)が多く、静寂、創造力、造形美、癒し、こころ豊か、生命力と続いた。その内、「伝統」は当然歴史的景観から得られたものであるが、「荘厳」「安心感」は歴史的景観と自然景観の両方からえられたもので、奈良らしい景観特徴を表している。

5.2.3 景観想起値

質問項目3の結果、表3のような回答が得られた。

表3. 奈良市東部景観想起値(中間順位以上、平均値)

5.2.5 奈良市東部景観調査のまとめ

1位	奈良公園	6,444億3,571万円
2位	春日山	5,500億0,000万円
3位	唐招提寺	4,333億3,333万円
4位	大仏殿	4,286億0,285万円
5位	平城旧跡	3,700億0,000万円
6位	春日原始林	3,186億7,000万円
7位	飛火野	2,466億4,645万円
8位	若草山	2,001億6,666万円
9位	奈良町界隈	1,340億0,375万円
10位	ささやきの小道	501億7,524万円
11位	高畑歴史的景観地区	128億0,250万円
12位	二月堂裏参道	34億0,500万円
13位	二月堂夕焼け	15億5,000万円
14位	猿沢池	11億7,000万円
15位	春日大社鐘楼	3億9,000万円

奈良市東部の景観想起値全体の平均値は1,615億2,670万4,090円、平均値以上は奈良公園、春日山、春日原始林、飛火野、若草山の自然景観と、唐招提寺、大仏殿、平城旧跡の歴史的景観であった。特に奈良公園は6,444億3,571万円、唐招提寺4,333億3,333万円と想起値が非常に高い。

図7：奈良市東部景観想起値1位春日原始林

図8：奈良市東部 景観想起値調査2位 奈良公園

図9：奈良市東部 景観想起値調査3位 唐招提寺

5.2.4 奈良市東部景観保全支払可能額調査結果

質問項目4の結果、表4のような回答が得られた。

表4. 奈良市景観保全支払順位（平均値以上、月額、平均値）

1位	大仏殿	3,185円
2位	春日原始林	2,450円
3位	春日大社鐘楼	1,700円
4位	飛火野	1,516円
5位	ささやきの小道	1,416円
6位	高畑歴史的景観地区	1,350円
7位	春日山	1,125円
8位	平城旧跡	1,100円
8位	二月堂夕焼け	1,100円
10位	奈良公園	1,042円
11位	唐招提寺	800円
12位	若草山	525円
13位	二月堂裏参道	500円
14位	猿沢池	466円
15位	奈良町界隈	270円

奈良市の景観保全支払可能額（月額）全体の平均値は1,320円、平均値以上は大仏殿、春日大社鐘楼の歴史的景観、春日原始林、飛火野、ささやきの小道（奈良公園の一部）と奈良公園に隣接する高畑歴史的景観地区であった。

自然景観である奈良公園が想起値1位となった。奈良公園は広さ502ha、明治時代に国有地を奈良県が公園化したもので、一面芝生に覆われ、鹿などが遊ぶ緑あふれる景観である。若草山、春日山の麓にあり、東大寺や興福寺、正倉院、春日大社、高畑町と隣接している。奈良の自然景観は人工的なものが多く、歴史的景観と隣接していることから、奈良市民が奈良公園一帯から安心感、荘厳感、伝統性を感じ、巨額の想起値にその存在を託していることがわかる。歴史的景観の中では、大仏殿（保全支払額1位）や唐招提寺（想起値3位）が上位を占めた。奈良市生産

人口約25万人（平成15年度）が景観保全に支払うことができると考えている年間額は大仏殿では7億9,625万円で、これは奈良市決算額1,060億（平成14年度）の0.7%にあたるものである。

5.3 東京都都心部景観

5.3.1 こころ豊かな景観

質問項目1の結果、30名で合計90票、30箇所が選ばれた。1位表参道の他、西新宿高層ビル群、銀座4丁目、レインボーブリッジ、汐留、六本木ヒルズ、東京タワー、お台場、井の頭公園、歌舞伎町などの現代都市景観と皇居二重橋、浅草寺、上野不忍池、東京駅、日本橋などの歴史的都市景観が中間順位以上であった。いずれも、人工景観であること、少数として新宿ゴールデン街、神田川、隅田川、路地空間、都市農地のある風景などが上げられた。

5.3.2 景観印象評価

質問項目2の結果、30名で28点の印象評価の言葉が回答された。元気（21票）安心感（16票）、キレイ（10票）、伝統（12票）などの回答があった。

5.3.3 景観想起値

質問項目3の結果、表5のような回答が得られた。

表5. 東京都都心部景観想起値（中間順位以上、平均値）

1位	西新宿高層ビル群	525億0.833万円
2位	汐留宮川雅充	401億1.000万円
3位	六本木ヒルズ	366億7.666万円
4位	お台場	166億7.166万円
5位	表参道	143億0.000万円
6位	東京駅	100億0.333万円
7位	銀座4丁目	93億6.666万円
8位	東京タワー	66億7.000万円
9位	井の頭公園	50億0.000万円
10位	レインボーブリッジ	20億2.900万円
11位	上野不忍池	5億0.333万円
12位	浅草寺	3億5.166万円
13位	皇居二重橋	1億5.625万円
14位	日本橋	5,000万円
15位	歌舞伎町	50万円

東京都都心部景観想起値全体の平均値は75億259万333円、平均値以上は西新宿高層ビル群、汐留、六本木ヒルズ、お台場、表参道、東京駅、銀座4丁目、最近の都市開発で新たに出現した現代的な景観と定番の銀座4丁目と東京駅が上位を占め、東京タワーや皇居二重橋は平均値以下であった。

図10：東京都都心部 景観想起値調査1位 西新宿高層ビル群

図 11：東京都都心部 景観想起値調査 2 位 汐留

図 12：東京都都心部 景観想起値調査 3 位 六本木ヒルズ

5.3.4 東京都都心部景観保全支払可能額調査結果

質問項目 4 の結果、表 6 のような回答が得られた。

表 6. 東京都都心部景観保全月額支払額順位（中間順位以上）

1 位	西新宿高層ビル群	3,358 円
2 位	東京駅	2,825 円
3 位	皇居二重橋	1,875 円
4 位	レインボーブリッジ	1,150 円
5 位	浅草寺	625 円
6 位	汐留	366 円
7 位	表参道	183 円
8 位	日本橋	125 円
9 位	上野不忍池	100 円
9 位	東京タワー	100 円
11 位	六本木ヒルズ	66 円
12 位	銀座 4 丁目	57 円
13 位	井の頭公園	50 円
14 位	歌舞伎町	0 円

東京都都心部景観保全支払可能額全体の平均値は 1,188 円、平均値以上は西新宿高層ビル群、東京駅、皇居二重橋であった。

5.3.5 東京都都心部景観調査のまとめ

東京都都心部における景観、特に西新宿高層ビル群、汐留、お台場や六本木ヒルズに対し、人々は「元気」や「キレイな感じ」を受けていることがわかった。それら最近の都市開発によって出現した新しい景観から元気を得、新たな刺激を受けていることになる。東京タワーは想起値が下位であり、また東京都庁や国会議事堂の回答がゼロであった。これらの近代的景観は、既に景観としての対象物として忘れられたと推測される。こうしたことから東京都都心部の景観にはトレンドが存在することがわかる。

6. 上田市、奈良市東部、東京都都心部景観調査比較

共通して 3 つの街の景観から得られた印象評価語は荘厳、安心、伝統であった。東京都都心部のみ、近代人工物景観に対して「元気」「キレイ」が突出した。景観印象評価数比較では上田市 28 点、東京都都心部 28 点、奈良市東部が 57 点と 2 倍であった。奈良市の場合、景観に対する感性が特に多様であると考えられる。

3 つの街の景観想起値を一覧にすると、1 位（奈良公園 6,444 億 3,571 万円）から 9 位まで全てが奈良市東部で、10 位に新宿高層ビル群（525 億 833 万円）、上田市太郎山を望む（251 億 7,500 万円）がやっと 14 位に入るといった結果になった。平均値でも上田市 28 億 3,510 万円、奈良市東部 1,615 億 2,670 万円、東京都都心部 75 億 259 万円と奈良市東部の値が非常に高い。また景観保全費比較（平均値）では、上田市 861 円、奈良市東部 1,320 円、東京都都心部 1,188 円と景観保全に対する負担額についても奈良市が高い。奈良市では自然景観を含めた歴史的景観への評価が高く、奈良公園や東大寺大仏殿など景観のブランド性、歴史物語性が強く影響していると考えられる。東京都都心部では、景観は“元気の素”になるが、こころの支えや親近感を持つものではない。また信州の山や川の自然景観の想起値が、奈良や東京都心と比較して低いのは、信州では自然が存在することが当然だと思う人が多いと考えられる。これまでみてきたように、心を豊かにする景観の想起価値は存在する。またその地域差も認められた。

表 7. 上田市、奈良市東部、東京都都心部景観想起値順位

1 位	奈良公園	6,444 億 3,571 万円
2 位	春日山	5,500 億 0,000 万円
3 位	唐招提寺	4,333 億 3,333 万円
4 位	大仏殿	4,286 億 0,285 万円
5 位	平城旧跡	3,700 億 0,000 万円
6 位	春日原始林	3,186 億 7,000 万円
7 位	飛火野	2,466 億 4,645 万円
8 位	若草山	2,001 億 6,666 万円
9 位	奈良町界隈	1,340 億 0,375 万円
10 位	西新宿高層ビル群	525 億 0833 万円
11 位	ささやきの小道	501 億 7,524 万円
12 位	汐留	401 億 1,000 万円
13 位	六本木ヒルズ	366 億 7,666 万円
14 位	太郎山を望む	251 億 7,500 万円
15 位	お台場	166 億 7,166 万円
16 位	信濃国分寺	163 億 9,787 万円
17 位	表参道	143 億 0,000 万円
18 位	高畑歴史的景観地区	128 億 0,250 万円
19 位	東京駅	100 億 0,333 万円
20 位	銀座 4 丁目	93 億 6,666 万円
21 位	烏帽子岳を望む	84 億 5,533 万円
22 位	東京タワー	66 億 7,000 万円
23 位	井の頭公園	50 億 0,000 万円
24 位	上田駅前	34 億 6,666 万円
25 位	二月堂裏参道	34 億 0,500 万円

図13：上田市、奈良市東部、東京都都心部景観保全月額支払額比較表

7. おわりに

これまでの景観の想起調査の結果を受け、3つの考察を提示する。

緑の経済性

筆者は1994年奈良公園の芝生の上にパビリオンを建てて博覧会を行うという県知事の発表に対し、「緑に経済性がある」と反対の趣意を述べた。結局博覧会は強行されたが、その後両者の話し合いで、景観の経済性について議論が深まった。今回、想起法で人間が景観に対し経済的な価値を有していることを調査する原点は、奈良の市民運動からである。調査結果から見られる様に住民は景観から得られる感性を対価として提示できることがわかった。景観は明らかに人間のここに安心感や尊厳感を提供し、その豊かさを金額という価値で定量化することができる。国道の醜いロードサイド景観や美しい田園が消滅した農村景観は景観の価値を低減させているだけではなく、社会的経済価値をも喪失させていることになる。緑の経済性を認識した景観のマーケティング思想が必要である。

バーチャル景観

東京都都心部調査で、被験者の見て感じている景観はリアルかバーチャルかを聞いたところ、リアルと回答したものが多かったのは銀座4丁目、表参道であった。またバーチャルと回答したものは上野不忍池、浅草寺であった。東京の景観の特殊性は実際に見た景観か、あるいはTV、雑誌の映像が無意識に記憶され、記憶としての景観をあたかも見たかのように認知するバーチャル景観かあいまいな点である。東京ドームや自民党本部などは、普段プロ野球中継やニュース映像などで見慣れている映像景観である。したがって、景観は実際に見たものよりも心に残ったものの影響が強いのではないかと。景観の持つ歴史性や物語性、景観のブランド性が強く影響を及ぼすことを考慮し、バーチャル景観も

実は「景観そのもの」であることを認識したい。

景観感性教育

景観の悪化はつきるところ、人間の美意識如何である。仮に景観感性の定量化が計られても、人間の景観に対する審美性が向上しなければ景観の悪化を食い止めることはできない。そのため景観感性教育が必要であると考えられる。ただし、一部の人々を対象にした景観ワークショップなどは、限られた人々に対する啓蒙に終始し、一般市民全体に対する景観教育にはならない。景観教育は単純に景観のみを対象に教育するのではなく、生活応用芸術教育や環境教育など人間の感性そのものを向上させる教育である。普段の生活の審美性を高めることによって、日本人が本来持っていた美意識を呼び起こし、木造建築や美しい田園景観などの景観形成につながるものである。景観感性教育のカリキュラムとしては、

1. 理念教育 景観、環境と人間の関係性を理解する
2. 基礎教育 審美性を高め、美の教養育成を図る
3. 技術教育 景観形成デザインや景観保全技術の修得が考えられる。早急に景観教育の開始を薦めるものである。

(本論で使用した写真図5は信州上田ロケ地ガイドから、図7、図8、図9は奈良市観光情報センター「鹿君の画像宅配便」から、図10、図11、図12は東京発フリー写真素材集から使用しています)